

事務事業名	社会福祉協議会運営支援事業				担当	健康福祉部 社会福祉課 社会福祉係			
政策名	C	思いやりと安心に満ちたみんな元気なまちづくり				電話番号	0285-81-6943		
施策名	1	市民主体の地域福祉の推進				☐ 実施計画上の主要事業			
関連個別計画	真岡市地域福祉計画					事業期間	☐ 単年度のみ		
法令根拠	社会福祉法						☒ 単年度繰返（開始年度 昭和47 年度～）		
予算科目	1.一般会計	3.民生費	1.社会福祉費	1.社会福祉総務費			☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	社会福祉協議会は、地域福祉活動の中核として、地域自治会や民生委員・ボランティア団体等の活動協力を得て各種事業を行っている。社会福祉協議会運営支援事業は、社会福祉協議会の組織体制や財政基盤の充実を図るため、運営経費等の補助を行っている。2 8年度の職員体制は、協議会正規職員1 4名 嘱託職員8名 臨時職員3名。								

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

①手段（主な活動） 28年度実績 運営費補助による支援 29年度計画 前年度と同様	⑤活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移							
	名称	単位	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(見込)	
	ア 市が派遣している職員数	人	1	0	0	0	0	
	イ 運営補助金	千円	45,537	42,430	39,378	51,931	50,918	
	ウ							
	エ							
	オ							
②対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 社会福祉協議会	⑥対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移							
	名称	単位	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(見込)	
	ア 社会福祉協議会数	団体	1	1	1	1	1	
	イ 区数	区	134	134	134	134	134	
	ウ 民生委員・児童委員数	人	148	148	148	151	151	
	エ							
	オ							
③意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 社会福祉協議会の組織体制・財政基盤の充実、活動の強化	⑦成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移							
	名称	単位	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(見込)	
	ア 社会福祉協議会員数	人	19,386	19,203	19,400	19,470	19,470	
	イ 登録ボランティア団体数	団体	63	64	65	33	33	
	ウ 登録ボランティア数	人	5,532	5,544	5,887	1,228	1,228	
	エ							
	オ							
④結果（どんな結果(上位施策)に結びつけるのか） 社会福祉協議会が主体的に福祉活動に取り組んでもらう。	⑧上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移							
	名称	単位	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(見込)	
	ア 社協の福祉活動に満足している市民の割合	%	100	100	100	100	100	
	ウ							
	エ							
	オ							

(2) 総事業費の推移				単位	25 年度(実績)	26 年度(実績)	27 年度(実績)	28 年度(実績)	29 年度(見込)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
			県支出金	千円	0	0	0	0	0
			地方債	千円	0	0	0	0	0
			その他	千円	0	0	0	0	0
			一般財源	千円	45,537	42,430	39,378	51,931	50,918
			事業費計 (A)	千円	45,537	42,430	39,378	51,931	50,918
	人件費		正規職員従事人数	人	1	1	1	1	1
			延べ業務時間	時間	32	32	32	32	32
			人件費計 (B)	千円	130	135	134	133	133
			トータルコスト(A)+(B)	千円	45,667	42,565	39,512	52,064	51,051

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等	
①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか。	社会福祉協議会の発足に伴いその組織体制と財政基盤の充実、強化のための支援を行う。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは 5 年前と比べてどう変わったのか？	平成2 9年3 月の真岡市公共施設等総合管理計画に基づき総合福祉保健センターの福祉に特化した機能再編整備が予定されている。 平成2 9年3 月「真岡市地域福祉活動計画・地域福祉活動計画（第2 期）」を策定する。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	

2. 1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果（上位施策）に結びついているか？	☒ 結びついている ☐ 見直し余地がある 地域福祉の充実、市の政策に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	☒ 妥当である ☐ 見直し余地がある 地域福祉の充実のための中核となっている社会福祉協議会への支援は、妥当である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	☒ 適切である ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある 対象が地域福祉の中核となっている社会福祉協議会であり、適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある 社会福祉協議会への運営支援である。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☒ 影響がある ☐ 影響がない 社会福祉協議会の運営に支障があるので、廃止・休止は難しい。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	☐ 類似事業がある（類似の事務事業名を記載） ☒ 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	☐ 他の事業と統合・連携ができる ☐ 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ （仕様や工法の適正化、住民の協力など）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 地域福祉の充実には支障があるので、事業費の削減は難しい。
	⑧人件費（延べ業務時間）の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずに正社員以外の職員や委託でできないか（アウトソーシングなど）	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある 必要最小限の人員で事務処理をしているため、削減はできない。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	☒ 公正・公平である ☐ 見直し余地がある 対象が地域福祉活動を行っている社会福祉協議会であるので、公平・公正である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☐ 見直し（ ☐ ：目的妥当性 ☐ ：有効性 ☐ ：効率性 ☐ ：公平性） ☐ 統合 ☒ 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の 2 次評価結果（事業の総括と事業の方向性）

(1) 1 次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足（説明責任不充分） ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える																								
(2) 2 次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり																								
(3) 2 次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）	(4) その他 2 次評価会議で指摘された事項																							
(5) 改革・改善による期待成果 <table><tr><td></td><td></td><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><td></td><td></td><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><th rowspan="3">成果</th><th>向上</th><td></td><td></td><td></td></tr><tr><th>維持</th><td></td><td>○</td><td></td></tr><tr><th>低下</th><td></td><td></td><td></td></tr></table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							